

Title	カザフ語における動詞的な名詞と名詞的な動詞
Author(s)	藤家, 洋昭
Citation	大阪外国語大学論集. 20 p.1-p.11
Issue Date	1999-03-30
oaire:version	VoR
URL	<a href="https://hdl.handle.net/11094/79781">https://hdl.handle.net/11094/79781</a>
rights	
Note	

*Osaka University Knowledge Archive : OUKA*

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

## カザフ語における動詞的な名詞と名詞的な動詞

藤 家 洋 昭

### Қазақ тіліндегі етістік сипатты зат есімдер және зат есім формасындағы етістіктер

Фүжііе Хіроакі

Қазақ тілінде етістіктермен зат есімдер өзара сипаты басқа деп саналады. Бірақ олардың ішінде етістік сипатты зат есімдермен зат есім сипатты етістіктер бар.

Бұл мақалада етістік сипатты зат есімдермен зат есім сипатты етістіктердің өзара байланысы зерттелді. Атап айтқанда мағына жағынан етістік сипаты бар зат есім мен соңы "у" болып келетін етістікті талдай отырып, олардың зат есім сипаты, және септігі барма жоқ па, пысықтауыш жағынан анықталама жоқ па сынды етістікті ерекшеліктері зерттелді. Нәтижеде олардың ішінде етістік сипаты мен зат есім сипаты екеуі де барлығы анықталды.

#### 1.はじめに

語を品詞にわけるとき、その語が持っている性質によって分類するのが一般的である。ある性質をどのように考えるかによって品詞分類が異なっていることもある。

ある語の品詞を考えた場合、全体としてはある範疇に属するが部分的には他の範疇の性質ももっているということがある。例えば名詞でありながら動詞に特有の性質をもっていたりすることがある。

また、品詞分類の問題ではないが、語は語形変化によって他の品詞のような性質を持つことができる。例えば名詞化ということがある。

このような現象は、カザフ語 (Қазақ тілі) においても見られる。カザフ語の動詞と名詞という二つの範疇について見た場合、動詞的な名詞を見出だすことができる一方で、動詞の名詞化が生産的に行われることを忘れてはならないことに気づく。すると動詞的な名詞はどの程度動詞的で、名詞化された動詞はどの程度名詞的であるのかという疑問が生じるが、このような疑問に対する答えは得られていない。

上記の疑問に対する答えとして、カザフ語における動詞的な名詞と名詞的な動詞（具体的には動詞の y 形）の性質を記述することが本稿の目的である。

本稿ではまず、カザフ語における動詞的な性質と名詞的な性質を明らかにする。そして動詞的な名詞、名詞的な動詞と考えられるものをとりあげ、その動詞性と名詞性を考察する。

考察の結果カザフ語では名詞であっても格をとったり副詞的修飾語によって修飾されるなど動詞的性質をもっているものがあること、そしてそれらは表面的には動詞の名詞形とかなりの程度平行性を示すことが明らかになる。

## 2. 動詞と名詞

動詞と名詞は文法的性質が異なる。少なくともカザフ語においてはそうである。というより語を文法的性質によってグループ分けしたもののうちのひとつが動詞であり、またもうひとつが名詞である。品詞分類には諸説あるのは周知のとおりで、カザフ語についても絶対的な品詞分類というものはない。しかしこれまでのカザフ語の品詞分類ではいずれも名詞と動詞を区別して、名詞と動詞を区別しないという説は筆者の知るかぎりはない。したがってカザフ語において名詞と動詞が性質の違うものであることは疑いがないようである。

動詞と名詞の性質が違うことを示す一例として、例えばいわゆる活用（語形変化）において動詞と名詞は全く異なる活用（語形変化）をするということがある。

動詞 күл- 「笑う」

күлдім 「笑った（一人称単数過去形）」 күлемін 「笑う（一人称単数現在形）」

күлейік 「笑おう（一人称複数命令形）」

名詞 ат 「馬」

аттың 「馬の（属格形）」 атқа 「馬に（与格形）」 аттан 「馬から（奪格形）」

上にあげたように、動詞と名詞では、いわゆる語幹に直接付く語尾の種類が全く異なるのである。代表的には、動詞には時制を表すものが、名詞には格を表すものが付く。反対に動詞に格を表すものが付いたり、名詞に時制を表すものが付いたりすることはない。

\*күлдің（「笑う」の属格形）\*күлге（「笑う」の与格形）\*аттым（「馬」の一人称単数過去形）\*атамын（「馬」の一人称単数現在形）\*атайық（「馬」の一人称複数命令形）<sup>1)</sup>

これ以外の代表的なものをまとめると表のようになる。

表

	動詞	名詞
ГЕН	○	×
ЛЕР	×	○
所有接尾辞	×	○

このように、形態的には動詞と名詞は性質が異なるものである。

カザフ語において動詞と名詞が異なるものであることは上に見たとおりである。しかし、よく見ると動詞と名詞の両方の性質をもっているものがある。まず形態的な面を考えると、後に付くものが違うということは直接つくものが違うということであり、間接的にというのなら両者に共通して付くものはある。別の言い方をすると、語は語形変化によって文法的な性質を変えることができる。たとえばкүлу күлудің「属格形」күлуге「与格形」のように、動詞であっても－yを介することによって格語尾をつけることができる。したがってこれら動詞に－yがついたものはある意味で動詞と名詞の両方の性質をもっているといえることができる。意味的には動詞、文法的には名詞ということもできるかもしれない。

意味的には動詞ということを考えていいのなら、名詞と動詞の性質を合わせもっているものは動詞の－y形だけではない。意味の面を考えて、動詞を動作を表すものとする、動作を表すことばである、例えばсапар「旅行」なども動作を表すものであることから動詞的ということになり、－y形とはまた別の種類の、動詞と名詞の性質を合わせ持つものである。また、動詞のy形は動詞の活用形のひとつにすぎず独立した語彙項目をたてる必要はないと考えられるが、一部の辞典では動詞のy形の一部を見出し語としてあげている。そうすると動詞から生産的に作られるy形と見出し語としてあげられているyで終わるものはどういう関係にあるのかという疑問が出てくる。

上で述べたようにカザフ語には動詞と名詞の性質を合わせもっているものがある。このこと自体は別に新しい発見ではない。しかし動詞のような名詞あるいは名詞のような動詞が「本物の」名詞あるいは動詞とどのように違っているか、その性質はこれまでほとんど記述されていない。特に他の語と結びつくときにどのようなかという統語的な性質はこれまで未解明であった。次の章ではこれらの性質を明らかにする。

### 3. 統語的性質

前章で見たように、動作を表す名詞も－yで終わる動詞も格変化するという形態的な面では名詞的な性質をもっていることがわかっている。しかし他の語と結びつくときにどうなるかという統語的な性質については明らかになっていない点が多い。本章では統語面での性質を考察し記述す

る。分析の対象は動詞的な意味をもっている名詞と、動詞の y 形、そして動詞の y 形でありながら辞典に名詞としてあげられているものである。分析に用いたデータの文法性の判断はネイティブスピーカーのインフォーマントによった<sup>2)</sup>。

分析に先立って、「純粋な」動詞、あるいは名詞がどのようなふるまいを見せるのかその性質を明らかにする必要がある。そこで 3. 1 においてまず動詞の性質、名詞の性質にふれる。その後動詞と名詞の両方の性質をもっていると考えられるものについて検討してそれらの性質を明らかにする。

### 3. 1 動詞的性質と名詞的性質

分析に先立って、「純粋の」あるいは「典型的な」動詞あるいは名詞の性質を明らかにある必要がある。前の章でみたように、動詞と名詞は形態的には性質の違うものであったが統語的にもまた違った特徴をもっている。まず、カザフ語の動詞の統語的性質を考えてみよう。動詞の形態的な性質としては、先にも見たように、時制によって活用するといったようなことがあったが、統語的性質としては格を持つことがある。具体的には格語尾のついた名詞をとる。

Нұрбек Сайраға фермамызды көрсетті.

ヌルベク（人名）・サイラ（人名）与格・牧場—私たちの（対格）・見せた

「ヌルベクはサイラに私たちの牧場を見せた。」

における Сайраға（与格） фермамызды（対格）のような名詞をとることである。

また、動詞は副詞的修飾語によって修飾されるということがある。

一方、動詞と比べたときの名詞の性質を考えると、まず、動詞が格を持つのに対し、名詞は格を持つことはないということがある。名詞はより大きな句を作る際に前に他の名詞が来ることがあるが、前に来る名詞の格は属格あるいは主格であり、その他の格のものがくることがない<sup>3)</sup>。また、動詞が副詞的修飾語によって修飾されるのに対し、名詞は形容詞的修飾語によって修飾されることがある。カザフ語では一般に形容詞はそのままで連用修飾に、つまり副詞的に用いられ、形容詞をそのまま用いたのでは連体修飾すなわち形容詞的修飾をしたことにならない。たとえば日本語では「よい本」に対して「よく知っている」のように「よい」「よく」の形の違いがあるが、カザフ語ではそれぞれ жақсы кітап「よい本」、жақсы біледі「よく知っている」であり、жақсы の形に違いはない。したがって動詞的な名詞等を修飾する場合も形容詞であるからというだけでは形容詞的修飾語によって修飾されることにならないので注意が必要である。形容詞的修飾語によって修飾されることをはっきりさせるためには、その修飾語が形容詞的（連体修飾語）にしか用いることができないことが条件である。そのため本稿では位格形+ri を形容詞的修飾（＝連体修飾）のテストに用いることにする。カザフ語では位格形の名詞は基本的に時空を表す副詞的修飾に用いられ、そのままでは連体修飾ができず、連体修飾にはri を介することが

必要である。つまり位格形+riによって修飾できれば形容詞的修飾語による修飾が可能ということになる。

### 3. 2 動詞的な名詞

本節では上で述べたことをもとにカザフ語の動詞的な名詞の性質を考察する。動詞的な名詞を最初に正確に定義することはできないが大ざっぱにいて（意味的に）動作を表す名詞である。意味を手掛かりにすると、次のような語をあげることができる。

еңбек「労働」 көмек「援助」 сауда「貿易」 өндіріс「生産」 операция「手術」  
практика「実習」 ремонт「修理」

これらが名詞的な性質をもっていることは間違いない。その証拠として格変化することができる。

көмек

көмектің (属格形) көмекке (与格形) көмекті (対格形) көмекте (位格形)  
көмектен (奪格形)

また、普通の動詞と同じようには活用しないので、その意味では動詞ではないといえる。

\*көмектім (過去形一人称単数) \*көмегіміз (現在形一人称複数)

\*көмегерсіз (未来形二人称単数)

それでは格はどうだろうか。動詞であれば格を持ち名詞であれば格は持たないはずである。格について検討してみると、これらの中に格を持つものが見出される。

Нұрбектің Сайраға көмегі

ヌルベク (属格) ・サイラへ (与格) ・援助

「ヌルベクのサイラへの援助」

のような例にみられる通り、少なくとも与格をとることができるものがあることがわかる。ただしこれだけで結論づけるのはまだ早い。というのは、カザフ語の与格はそのままで連体修飾ができる場合があるからである。これは例えばТүркияға ұшақ「トルコへの飛行機」のような動作性のない名詞の前に与格形の名詞が来ることができることで示される。そこで他の格について調べる必要がある。他の格の中でもっとも動詞と関係がありそうなのは対格である。対格は通常、動詞の項を目的語として表すときに用いられると考えられ、名詞との関係はあまりない。ところが対格名詞をとっていると考えられるような例がみ出だされる。

Нұрбектің сағатты ремонту

ヌルベクの (属格) ・時計を (対格) ・修理<sup>4)</sup>

「ヌルベクによる時計の修理」

Дәрігердің Нұрбекті операциясы сәтті болды.

医者 (属格) ・ヌルベクを (対格) ・手術・うまくいった・なった

「医者によるヌルベクの手術は成功した。」

以上のことから格を持つという点では動詞的な性質をもっている名詞があることが明らかになった。

次に修飾語について考察する。大ざっぱにいて、修飾語は形容詞的修飾語と副詞的修飾語に分けることができる。連体修飾語と連用修飾語と呼んでもいい。カザフ語ではこの二つの区別が必ずしもはっきりしない場合もあるが、それでもやはり副詞的修飾語にしか使えないものがある。言うまでもないが動詞は副詞的修飾語によって修飾され、名詞は形容詞的修飾語によって修飾される。それでは動詞的名詞ではどうだろうか。まず、これらは本来、名詞であるので形容詞的修飾語によって修飾されることを確認しておこう。

Оқушылардың магазиндегі практикасы сәтті болды.

生徒たちの（属格）・デパートにおける（位格—ri）・実習・うまくいった・なった  
「生徒たちのデパートでの実習はうまくいった。」

この文におけるпрактикаの修飾語であるмагазиндегіは連体修飾を表すriが付いていることから確かに形容詞的修飾語である。同じように

Нұрбектің Алматыдағы саудасы сәтті болды.

ヌルベクの（属格）・アルマアタ（地名）における（位格—ri）商売・うまくいった・なった  
「ヌルベクのアルマアタでの商売はうまくいった。」

заводтағы еңбек

工場における（位格—ri）・労働  
「工場での労働」

予想どおり形容詞的修飾語によって修飾できることが確認できた。問題は副詞的修飾語によって修飾できるかどうかである。繰り返しになるが普通の、動作性のない名詞は副詞的修飾語によって修飾できない。\*Алтайда үйіміз（アルタイ（地名）において・家（私たちの））cf Алтайдағы үйіміз「アルタイにある私たちの家」。ところが下に示したように動詞的な名詞は副詞的修飾語で修飾できる。

Сабақтастардың жоспар жөнінде таласы өте нашар еді.

クラスメート達の（属格）・計画・ついて（位格）・議論・とても・ひどい・であった  
「クラスメート達の将来の計画についての議論はとてもひどいものである。」

Профессорлардың ресторанда президент сайламы бір мәселе болды.

教授たちの（属格）・レストランにおいて（位格）・大統領・選挙・1・問題・なった  
「教授たちがレストランで大統領を選挙したことが問題になった。」

ただし修飾するものによってはやや不自然なこともあり、どんな副詞でも常に修飾できるとは限らない。

?Нұрбектің алдымен сағат ремонту сәтті болды.

(ヌルベク・まず・時計・修理・うまくいった・なった)

「?ヌルベクによるまず時計の修理はうまくいった。」

この違いが何によるのかに答えることはできない。形容詞性や副詞性ということを考えなければならぬのかもしれないが本稿の範囲を超えるので機会をあらためて考えたい。

### 3. 3 動詞の y 形

前節では動詞的な名詞を見た。ここでは動詞の変化形で名詞的な性質をもつものを考察する。考察の対象になるのは動詞語幹に y がついたものである<sup>5)</sup>。これら本来動詞であるものが名詞になったときに本来の名詞と違う点はあるのかどうかということがある。そしてどの程度動詞性を残しているかということも考察の対象として興味深い。

まず、これらが形態的には名詞であることを確認しておこう。次のように格変化する。

барудың (属格形) баруға (与格形) баруды (対格形) баруда (位格形)

барудан (奪格形)

y 形の動詞が形態的には名詞的性質をもっていることが確認できたところで、次に統語的にどのような性質をもっているか見てみよう。例をあげるとつぎのようになる。

Нұрбек көне компьютер алды. 「ヌルベクは中古コンピュータを買った。」

Нұрбектің көне компьютерді алуы 「ヌルベクによる中古コンピュータの購入」

Нұрбек Сайраға гүл берді. 「ヌルベクはサイラに花を贈った。」

Нұрбектің Сайраға гүл беруі 「ヌルベクによるサイラへの花の贈答」

Нұрбек Алматыға келді. 「ヌルベクはアルマアタへ来た。」

Нұрбектің Алматыға келуі 「ヌルベクのアルマアタへの来訪」

Нұрбек Германияда зерттеді. 「ヌルベクはドイツで研究した」

Нұрбектің Германияда зерттеуі 「ヌルベクのドイツでの研究」

Нұрбектің Германиядағы зерттеуі 「ヌルベクのドイツでの研究」

これらからわかることは、動詞の y 形は、言うまでもないことであるが、格を持つということである。これは компьютерді (対格) Сайраға (与格) などの例から明らかである。そして格は、主語を除いては、「元の」格がそのまま現れるということがわかる。この点は動詞的であるといえる。主語は「元の」格である主格ではなく Нұрбектің で明らかなように属格になる。「純粋な」動詞 (定形の動詞) の主語は主格で表されるのでこの点は動詞的ではない。前の節で見た動詞的



な名詞もやはり主語相当語は属格で表されていたので動詞的な名詞との間に平行性が見られる。修飾語については、副詞（的修飾語）による修飾（Германияда）と形容詞（修飾語）による修飾（Германиядағы）の両方が可能である。

まとめると、主語以外の格はそのまま、主語は属格。副詞的修飾語によって修飾される。

上のようなことから y 形の持つ統語的性質が明らかになった。ここまでのところ動詞的な名詞との平行性も明らかになっている。では y 形の動詞は動詞的な名詞と同じなのだろうか。次の例を検討してみよう。

「大統領選挙は成功した。」

a. Президент сайламы сәтті болды.

大統領・選挙—所有接尾辞・成功した・なった

b. Президент сайлау сәтті болды.

大統領・選挙（選ぶこと）・成功した・なった

c. Президентті сайлау сәтті болды.

大統領（対格）・選挙（選ぶこと）・成功した・なった

d. \*Президентті сайлам сәтті болды.

大統領（対格）・選挙・成功した・なった

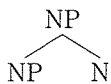
e. \*Президент сайлам сәтті болды.

大統領・選挙・成功した・なった

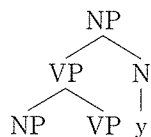
この例からわかることにまず所有接尾辞の有無ということがある。カザフ語では普通、名詞による名詞の修飾で修飾される名詞に所有接尾辞が現れる。これは修飾される名詞の種類には関係がないと考えられる。a と b を比べると違いは所有接尾辞の有無だけである。つまり a は一般的な名詞修飾パターンであるが b はそうではない。これは何を意味するのだろうか。ひとつの仮説として a は名詞修飾であり、b は動詞句全体が名詞になったものということが考えられる。すなわち図のような構造である。

図

a.



b.



この分析では y は一種の補文標識のようなものであることになる。これでうまく説明できそうであるが、そうすると a には副詞的修飾語を入れる余地がなくなってしまう、副詞的修飾語による修飾が可能であるという、先にあげた例が説明できない。

Профессорлардың ресторанда президент сайламы бір мәселе болды.

教授たちの（属格）・レストランにおいて・大統領・選挙・1・問題・なった

「教授たちのレストランでの大統領選挙が問題になった。」

また、президент сайлау には所有接尾辞が付かないが、他の動詞の y 形の場合所有接尾辞が付かないかどうかのデータを得ることができなかったため本稿ではこの件にこれ以上立ち入ることとはできない。

### 3. 4 y で終わる名詞

一部の辞書（Бектұров & Бектұрова(1993), "Қазақша—Орысша Сөздік", 飯沼英三「カザフ語辞典」以下「カザフ語辞典」と記す）には（動詞の y 形と同じ形である）y で終わるものが名詞として独立した項目としてあげられている。その辞書の考え方によればそれらは動詞の変化形ではないことになる。すると独立した名詞としての y 形と動詞の変化形としての y 形に何等かの違いがあるのだろうかということになる。本節では y で終わるもので独立した名詞とされているものの統語的な性質を記述し、動詞の変化形との違いを探る。

y で終わる名詞とされるものとして даму「発展」 жаттығу「トレーニング」 жүзу「水泳」 игеру「習得」 кездесу「遭遇」 қолдау「支持」 сұрау「質問」などがある<sup>6)</sup>。

興味深いのは辞書によって見出し語としてのとり方が違うことである。例えば「カザフ語辞典」にあげられている y で終わる名詞と Бектұров & Бектұрова (1993) のものとは必ずしも一致しない。これは独立した名詞であるか動詞の活用形なのかの判断の違いによるものと考えられ興味深い。

以下これら y で終わる名詞について考察しよう。

まず格についてである。

Нұрбек математиканы жаттығуды жек көреді.「ヌルベクは数学のトレーニングがきらいである。」

Нұрбектің техниканы игеруі сәтті болды.「ヌルベクの技術の習得はうまくいった。」  
これらから жаттығу, игеру は対格をとることがわかる。「主語」が属格形で表されることもわかる。したがって格をとるということについては動詞の y 形との違いを見出すことはできない。

修飾語については副詞的修飾語形容詞的修飾語どちらによる修飾も可能である。つまり修飾という点では動詞的な性質と名詞的な性質をもっている。

Нұрбектің кітапханада математиканы жаттығуы сәтті болды.「ヌルベクの図書館での数

学のトレーニングはうまくいった。」

Нұрбектің кітапханадағы математиканы жаттығуы сәтті болды. 「ヌルベクの図書館での数学のトレーニングはうまくいった。」

以上見たかぎりでは（yで終わる）名詞とされるものと動詞の変化形（y形）の間にはとりたてていうほどの違いはないようである。ただし、目的語相当の語が前に来たときにこれらの名詞の一部は所有接尾辞をとるということがある。

例 математика жаттығуы

これはパターンとしては名詞による名詞修飾のパターンになっており、名詞による修飾という点ではжаттығуは名詞扱いされていることになる。このことを動詞のy形との相違点とするためには動詞のy形は前に目的語相当の語が来たときに所有接尾辞をとらないことを示す必要がある。確かに一部の動詞のy形は前に目的語相当語が来ても所有接尾辞をとることはない。しかし、動詞のy形とされるものについて所有接尾辞をとるかどうかの詳細なデータを今回は残念ながら得ることができなかったため、これ以上ははっきりしたことは言えない。この点については今後の課題である。

### 3. 5 まとめ

カザフ語における動詞的な名詞と動詞のy形の統語的な性質を考察した結果以下のことが明らかになった。

名詞の中には格をとることができるもの（＝動詞的な名詞）がある。また、動詞のy形も格をとることができる。

動詞的な名詞も、動詞のy形も副詞的修飾語・形容詞的修飾語の両方によって修飾が可能なのがある。したがって修飾という点ではそれは動詞的性質と名詞的性質の両方を持っていることになる。

以上のように動詞的な名詞と動詞のy形は統語的に平行的な性質を示す。

これらの構造を解明する必要があるが、本稿では未解明のままであり、今後の課題として残る。

### 4. おわりに

カザフ語における動詞的な名詞と名詞的な動詞（具体的には動詞のy形）の性質を明らかにした。今後の課題として残された問題のうち主なものは次の通りである。

- ・目的語相当語がある場合の所有接尾辞の有無。所有接尾辞の有無を考察することによって名詞性がより一層はっきりすると思われる。

- ・（統語）構造。動詞的な名詞や動詞のy形が格をとったり、修飾語によって修飾されたときの統語構造はごく部分的にしか触れることができなかった。

研究を積み重ねることによってこれらの課題を解決していきたい。

注

- 1) аттым, атамын атайық という形は а т – 「撃つ、投げる」という動詞の活用形として存在する。しかしこれは名詞 ат 「馬」と何の関係もない。
- 2) 協力して下さったインフォーマントの Б. Д. 氏に深く感謝する次第である。
- 3) 例外的に格語尾のついた名詞による連体修飾があり、表面的には格をもっているように見えることがある。  
例 Түркияға ұшақ 「トルコへの飛行機」 сізге гүл 「あなたへの花」
- 4) これは、「ヌルベクの時計 (ヌルベク＝所有者)」という意味にはならない。「ヌルベクの時計を」は Нұрбектің сағатын になる。
- 5) 動詞に由来すると思われる名詞は y 形以外にもある。例えば сұрақ 「質問」 (сұра – 「たずねる」), сайлам 「選挙」 (сайла – 「選ぶ」) これらは生産的に形成されるものではないので本稿では動詞の変化形とはせず、動詞の名詞として扱った。
- 6) y で終わる名詞のなかで対応する動詞があるものだけに限り、単に y で終わる名詞を除いた。例えば су 「水」という名詞は確かに y で終わっているが с – という動詞はないので除外した。

参考文献

- Бектұров Ш. & А. Бектұрова (1993). Қазақша—Орысша Сөздік, Алматы.  
 Krippes (1994). Kazakh(Qazaq)—English Dictionary. Dunwoody Press.  
 Shnitnikov B. N. (1966). Kazakh—English Dictionary. Indiana University Publications Uralic and Altaic Series 28.  
 飯沼英三 (1995). 『カザフ語辞典』. ベスト社.  
 影山太郎 (1993). 『文法と語形成』. ひつじ書房.

(1998. 9. 21 受理)